

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 9号

2012/7/30 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、世界のカカオ豆相場 13年は回復の見通し (7/24)

ロイター通信が24日発表した市場関係者への調査によると、世界のカカオ豆相場は来年、供給不足を支援材料に回復が見込まれるという。

アナリストやトレーダー18人を対象に行った調査結果によると、回答者の大半は、2011～12年度はわずかに5,000トンの供給過剰ながら、12～13年度は予測中央値で4万トンの供給不足と見込んでいる。カカオ豆の最大生産国であるコートジボワールの同期の生産高は135万トンと見込み、前年度の国際ココア機関（ICCO）統計の141万トンを下回るとの見通しを示した。カカオ豆相場については、過去半年はレンジ内で推移しており、回答者もレンジを抜けるのは来年以降と予想。13年については、現行水準に比べ約10%高と見込んでいる。

2、コートジボワールのカカオ豆価格、横ばいから下落 (7/24)

コートジボワールのカカオ豆農家やバイヤーが24日明らかにしたところによると、同国のカカオ豆生産地域の大部分では先週、農家庭先価格が横ばいか下落だった。

アビジャンにある欧州系カカオ豆輸出業者の購買担当者によると、輸出港アビジャンでの先週の平均価格は1キロあたり740～780CFAフランで、2週連続の下落。前々週は同800CFAフランだった。この担当者は「品質が良くない。大半のバイヤーは見向きもしない。少数の圧砕業者はいまだに買っているようだ」と話した。

また、第2輸出港であるサンペドロでの先週の平均価格は750～770CFAフランで、前々週は770～800CFAフランだった。コートジボワールは、カカオ豆生産で世界首位。数カ月に及んだ干ばつにより収穫が遅れた影響で、現在2011～12年度のミッドクロップ収穫期を迎えている。また、大雨や曇りなど天候不順も、不作や豆の品質低下につながった。農家は豆を乾燥させるのに苦戦しているという。

3、コートジボワールのカカオ豆着荷数量、128万5000トンー前年比減 (7/23)

コートジボワールの輸出業者の23日までの推計によると、今期の同国のカカオ豆着荷量は約128万5,000トンとなった。前年同期は135万0226トン。また国内2輸出港への22日までの1週間の着荷量は約1万2,000トンで、前年同期の1万9,687トンを下回る予想となった。

4、アジア・カカオ磨砕業者 - レシオを上昇、またインドネシア収穫は最終段階に(7/27)

- ・ココアバターレシオが先週の 1.1 から今週 1.17 へ上昇（ロンドンカカオ豆市場価格に対し）
- ・ココアパウダー価格は US\$3700/トン～US\$4,000/トンで変化なし

アジアのカカオ豆、磨砕業者は、先般第二四半期のカカオ豆磨砕数量が減少し、その影響で逆にココアバターの在庫が十分ではないと評価され、バターレシオが上昇していた欧州市場に引き上げられるように、今週ココアバターレシオを上昇させた。

欧州の第二四半期のカカオ磨砕数量の落ち込みは、磨砕業者の利幅減少や、欧州経済危機の全般の影響によるチョコレート需要全般の不振の影響により、前年対比ベースで少なくとも過去 12 年間で最も極端に減少し、前年同時期比で 17.8%も落ち込んだ。

シンガポールベースのトレーダーによると、『今週バターのレシオは先週の 1.1 から 1.15～1.17 レベルに上昇した。基本的には欧州市場に反応する意味合いでの上げであるものの、いくつかの磨砕業者では既に以前からココアバターのレシオを上昇させており、ココアバターの販売を抑制したいという動きがある。』『ココアパウダーの需要はある、が期待していたほどないと感じた』という。

欧州の現物市場のココアバターは、前述の磨砕数量統計の発表後は供給面の不安からまず 1.22 まで上昇し、現在は 1.27 まで更に上昇している。

一方、ココアパウダーは今週も US\$3700/トンから US\$4,000/トンで先週と大きな変化はなかった。

また、トレーダー筋では、アジアの第二四半期の磨砕数量が前年対比+5.7%であったのは、堅調なココアパウダーの需要が貢献しているとみている。ココアパウダーは主に、チョコレート味のベーカリー製品、飲料、アイスクリーム等に使用される。

シンガポール、マレーシアのカカオ磨砕業者は主にカカオ原料を世界第 3 位のカカオ生産国インドネシアから仕入れている。

《インドネシアの収穫状況》

インドネシアの主要なカカオ生産地であるスラウェシ島のメインクロップの収穫はもうすぐ終わりを迎えると予測されている。スラウェシ島のメインクロップは通常 4 月からスタートし、7、8 月にピークを迎える。その後、収穫量の少ないミッドクロップが 10 月か 11 月あたりから開始される。

先週、スラウェシのカカオ豆は NY ココア先物市場価格に対して \$ 50/トン低い価格にて取引された。

スラウェシ島の南州都であるマカッサル (Makassar) のカカオ仲買業者は、『毎日の集荷ペースは落ちてきており現在は 1 日で 200 トン程度、また品質も下がってきており、毎年収穫期後半に見られる現象であると説明している』『ビーンズカウントは、100 g 当たり、120 粒かそれ以上だね』とコメントするとともに、6 月頃は 1 日約 500 トンの集荷があったことを付け加えた。

インドネシアのカカオ豆のサイズ基準は 100 g 当たり 110 粒である。カカオの粒の大きさは品質を見る重要な項目で、カウントが低い程高品質とされている。

インドネシアスラウェシ島からのカカオの 6 月の月間輸出は、昨年同月の **15,232 トン** から 68%も減少し、今年は **4,935 トン** であった。

5、ブラジルカカオ豆着荷はバイヤーの需要も少なく低調 (7/25)

- ・バイヤーからの低い需要が以前カカオ豆の集荷に影響している。
- ・Bahia 州以外の州からの集荷は減少
- ・コートジボアールからの輸入カカオ豆は汚染により通関を停止させられた。

ブラジルの主要産地である Bahia 州からのカカオ豆の着荷は、市場のバイヤーからの需要も少なく、低調であったことが Bahia Commercial Association からのデータとアナリストからのコメントにて判明した。他の州からのカカオ豆の着荷も同様に減少した。

また、ブラジルの植物検疫所は、コートジボアールから着荷したカカオ豆を汚染の恐れがあるとして、一次的に輸入停止措置とし、同国の農業省は使用する前にこの対象のカカオ豆のくん蒸を命令した。この荷物は 6 月後半にブラジルに着荷した荷物であり、まだ統計上の数字には反映されていない。

ブラジルは 1990 年代の初頭までは世界第 2 位のカカオ生産国であったが、天狗巣病が Bahia 州全体に拡大し多くの農園を荒廃させた影響で現在は世界第 6 位となっている。

Bahia 州の農家からの引き渡し価格は、先週から 71-74 reais (US\$34.87 to \$36.34)にとどまっており、この価格は市場価格では US\$2,315-\$2,410/トンに値する。NY カカオ先物市場に対するプレミアムは現在 +\$200/トンとなっており、2010 年の 12 月以来最も低いレンジになっている。

《2012/13 ARRIVALS IN 60-KG BAGS FROM MAY 1, 2012》

	先週	累計
Bahia	79,554	980,918 (58,855 トン)
Other states	29,226	447,598 (26,855 トン)
Other nations	48,471	100,307 (6,018 トン)
Total	157,251	1,528,823 (91,729 トン)

《2011/12 ARRIVALS IN 60-KG BAGS FROM MAY 1, 2011》

	同週	累計
Bahia	65,761	787,903(47,274 トン)
Other states	27,912	233,275 (13,996 トン)
Other nations	0	0 (0 トン)
Total	93,673	1,021,178 (61,270 トン)

(\$1 = 2.036 reais) (arroba = 15kg or 32.4 lbs)

統計情報：

当ニュースでもよく磨砕数量に関する情報が出てまいりますので、現在の各国の磨砕数量についての統計資料を ICCO の資料より抜粋してご紹介いたします。

Grindings of cocoa beans
(thousand tonnes)

	2009/10		Estimates 2010/11		Forecasts 2011/12	
Europe	1523	40.8%	1612	41.2%	1599	40.1%
Germany	361		439		450	
Netherlands	525		535		520	
Others	637		638		629	
Africa	685	18.4%	656	16.7%	722	18.1%
Côte d'Ivoire	411		361		425	
Ghana	212		230		240	
Others	61		65		57	
America	815	21.8%	855	21.8%	851	21.3%
Brazil	226		239		235	
United States	382		397		400	
Others	207		218		216	
Asia & Oceania	708	19.0%	792	20.2%	820	20.5%
Indonesia	130		190		220	
Malaysia	298		305		300	
Others	280		297		300	
World total	3730	100.0%	3914	100.0%	3992	100.0%
Origin grindings	1527	40.9%	1594	40.7%	1680	42.1%

Source: ICCO Quarterly Bulletin of Cocoa Statistics, Vol. XXXVIII, No. 1, Cocoa year 2011/12

Published: 29-02-2012

Note: Totals may differ from sum of constituents due to rounding.

視点：歴史的にカカオ豆の磨砕工場への設備投資は、チョコレートの消費国で行われてきましたが、この 15 年間にカカオ豆生産国の経済発展や国側の投資環境の整備に伴って、生産国で磨砕工場を設立し、加工までを行うようになってきました。

現在、カカオ豆精算国での磨砕数量（上記の表の ORIGIN Grindings）は世界全体の 42.1% を占めるまでになっています。今後、大幅な上昇はカカオ生産国で期待され、直近ですと、インドネシアでの生産数量が拡大する計画です。

カカオ豆の磨砕工場は装置産業で、ある程度の規模で事業を行うことが価格競争力に繋がりますので、カカオ豆の生産数量が多い国への投資が妥当で、生産国側もカカオ豆の輸出事業よりも雇用を生み出す、すそのの広い加工事業への投資を期待しています。

*ニュースソースは特記がない場合以外は、ロイター通信社の情報を加工し提供しています。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp